



わた なべ てる かず
渡 辺 晃 一

つ し み ん かい
津市民の会

自治会等要望の防犯灯設置の現状と今後は

問 「犯罪のない安心・安全なまちづくり」として、各自治会から防犯灯の要望が上がっている。各自治会からの防犯灯の設置要望への取り組みの現状と隣接する自治会間を結ぶ道路、特に通学路への設置要望の現状はどうなっているのか。平成29年度には環境対策推進基金も底をつくと考えられ、一般財源を充当してでも、今後も補助制度は継続していくのか問う。

答 自治会からの防犯灯設置要望への取り組みの現状は、平成28年度末で自治会が保有する防犯灯約2万9,000基のうちLED型防犯灯は約1万8,500基となり、LED化率は約63%に達する見込みである。その補助財源は、平成29年度中に基金を使い切る見込みであるが、引き続き自治会からの設置支援に対する要望に応えられるよう、基金以外の一般財源を充当し支援を継続していく。また、集落間防犯灯は、夜間における犯罪の防止や歩行者の安全・安心を確保するため、通学路を中心に整備を図っているところで、平成28年度は16基設置工事を行い、約3,400基を設置管理している。今後も引き続き地域の要望に応えられるよう整備を図っていく。

●その他の質疑・質問●

- 市税の収納率向上について
 - 現状と今後はどうするのか
- 男女共同参画アンケート結果について
 - 結果から見えてきたことや基本計画策定に向けた考え方は
- 廃止される上井生踏切の機能回復と大谷踏切拡幅計画の進捗はどうか
- 地域に寄り添った獣害対策について



▲犯罪のない安心・安全なまち住民を守る防犯灯設置を



かわ さき しょう じ
川 崎 正 次

けん と
県都クラブ

教員が子どもたちと向き合う時間の確保を

問 教育方針の中で、平成29年度に「統合型校務支援システム」を全ての小中学校に導入すると説明があったが、システム導入の目的と効果やメリットは何か。

また、システムを導入した自治体と市内での実験校はそれぞれいくつあるのか。

さらには、今後の展開と本格稼働スケジュールはどうなっているのか。

答 システムの導入は、事務的な業務の効率化を進め新たな時間を創出し、津市の教育大綱の第1の着眼点である子どもたちと向き合う時間を確保することを目的とし、調査書、健康記録などの公簿ごとの入力作業が削減され、大きな時間的効果を生み出すことができる。さらに、市内全小・中学校に導入することで、学習の継続性、系統性のある教育が可能となる。

三重県内における導入自治体は、いなべ市と東員町の2市町となっており、津市内の実験校は小学校3校、中学校3校で平成24年度から検証を行っている。

今後は平成29年10月稼働に向け、プロポーザル方式で発注業者を決定した後、早期に各学校へ周知し、基本情報の登録作業等を行っていく。

●その他の質疑・質問●

- 獣害対策について
 - 当初予算の増額のポイントは
 - 獣害対策相談チームの成果は
- バス路線について
 - サオリーナ路線のルート案は
 - 片田団地から久居駅の運行を
- 道路網の整備について
 - 中勢バイパスの渋滞解消策は
 - 国道163号片田バイパスの進捗状況と今後の予定は など



▲校務支援システムで子どもたちへのサポート体制の充実を